

伝えたい
残したい
わがまちの
誇り



長野地区
Nagano

ふるさと の情景

VOLUME
12

長野地区
(長野神社のタイマツタテ)



① 点火され燃えあがる松明
② 松明に巻く割竹を編む作業
③ 葉のついた雑木を割竹に巻く作業
④ 点火の前に行われる湯立神楽の様子

※長野神社へは河内長野駅から徒歩約2分。



1



4



3



2

長野神社のタイマツタテは、毎年10月11日に行われます。この行事の由来は定かではありませんが、「昔、神社の祭神である牛頭天王を迎えるために松明を焚いた」ことが起源とされています。松明は10月1日に神社の境内で作製され、人の手と重機を用いて直径約1.5m、高さ約5mのもの completes 成します。松明の側面には鏑矢を模した飾り、先端には唐傘が取り付けられ、11日まで安置されます。11日に神事が行われたのち、トウヤと呼ばれる祭礼の当番によって点火されます。

現在では参加者の減少や世代交代などにより、行事を取り巻く状況も変化しています。従来は決まった家が務めていたトウヤも、現在は神社の奉賛会と宝恵会の会員のみなさんで務めています。一方で松明の作製方法は昔から伝えられており、うるう年は作製方法が少し異なるなど、行事の古さがうかがえる部分も残っています。このようにタイマツタテは、変化を受け入れつつも伝統を守りながら受け継がれています。

ふるさとのひと

北野賢式さん

私の祖父の時代よりずっと前からあったタイマツタテ神事。毎年10月1日に神社の氏子を中心に力を合わせて巨大な松明を作っています。今は重機の力を借りていますが、昔は人の力だけで持ち上げ、手押し車に乗せて周辺を練り歩きました。この伝統行事があるおかげで、地域のつながりも深まっています。長野神社責任総代として、今後もタイマツタテ神事を大切に守り続けねばと思います。

